

平成 30 年度学校評価

～学校関係者評価委員会報告書～

学校法人誠和学院 日本工科大学校

1 学校評価の考え方

(1) 多面的学校評価

(2) P D C A サイクルを踏まえた学校評価

2 学校自己評価結果

(1) 学生評価結果と考察

(2) 平成 30 年度 学校自己評価結果

(3) 平成 30 年度 学校自己評価の考察

3 学校校関係者評価委員会の概要（意見要旨）

社会が求める人材の育成

即戦力となる人材を育成する専門力教育

- ・専門的な知識・理解の指導
- ・実務的な技能の指導
- ・職業人として必要なスキルの育成
- ・長期インターンシップの実施
- ・企業等と連携した教育諸活動の推進 等

自律とモチベーションを養う人間教育

- ・自律性や自立心の涵養
- ・協調性や協働性の育成
- ・社会規範や礼儀作法の遵守
- ・向上心や勤労意欲の喚起
- ・権利と義務の適正な行使 等

多面的な視点で学校評価を実施

自己の職務遂行
の目線から評価

自己職務評価

職域の組織的協働
の目線から評価

職域協働評価

組織の一員として
の目線から評価

学校改善評価

カスタマーである学生
の目線から評価

学生評価

【評価内容例】

- ・職務目標
- ・自己研鑽目標
- ・資格取得目標
- ・営業目標 等

- ・即戦力育成プラン
- ・人間力育成プラン
- ・営業成果と課題、
対策 等

- ・教育内容
- ・教育課程
- ・学生生活、
就職・進学
- ・資格取得 等

- ・指導体制
- ・指導方法
- ・カリキュラム構成
- ・資格取得
- ・進路指導 等

【評価・分析・考察の工夫】

管理職が個人面
談し取組みの評
価と助言

各職域の評価・分析
結果を全教職員で協
議し、対策を共有

評価・改善が必要
なコアコンピタン
スを重点評価

全体的な評価に加
え、教科ごとに評
価し課題を明確化

学校関係者評価委員会

評価結果の公表

PDCAサイクルを踏まえた学校評価

Plan（計画）

- 学校経営基本方針の策定
教育目標、教育計画、各種事務推進計画等
- 学修指導の重点項目やカリキュラムの策定
企業等が参画する教育課程編成委員会の意見を反映
- 改善行程表に基づき改善策を策定・推進

Action（改善）

- 多面的学校評価結果と学校関係者評価を踏まえた改善行程表の作成
- 企業等が参画する教育課程編成委員会で学修指導やカリキュラムの改善の方向性について検討
- 学科・職域組織自己評価及び教職員自己評価の改善（次年度目標設定）

Do（実施）

- 即戦力となる専門性の育成
- 職業人としての人間力の育成
- アクティブラーニング等の指導方法の工夫
- インターンシップの推進
- 企業等と連携した教員の授業力の向上
- 資格取得率を高める工夫 等

Check（点検・評価）

- PDCAサイクルを踏まえた多面的学校評価の実施
 - ・評価①：自己職務評価
各教職員が職務や自己研鑽、資格取得率等の目標を設定し、自己評価する。
 - ・評価②：職域協働評価
職域ごとに人間力や即戦力などに関する組織目標を設定し、協働した取組みの達成度について自己評価する。
 - ・評価③：学校改善評価
教職員が学校の教育内容や方法などの改善の必要性について評価する。特に、コアコンピタンスに重点を置き評価する。
 - ・評価④：学生評価
学生が教職員の授業内容や指導方法、学修環境などについて評価する。
- 学校関係者評価委員会の開催
多面的学校評価結果を踏まえた改善の方向性についての意見を聴取する。
 - ・委員：企業関係者、保護者、卒業生、高校関係者等
- 評価結果をホームページ等で広く社会に公表する。

平成 30 年度学校自己評価結果

【評価者及び評価実施日】

- ・評価者：正規教職員 32 名
- ・評価日：平成 31 年 2 月 25～3 月 12 日

【評価基準】

A：そう思う、B：おおむねそう思う、C：あまりそう思わない、D：そう思わない

【集計方法】

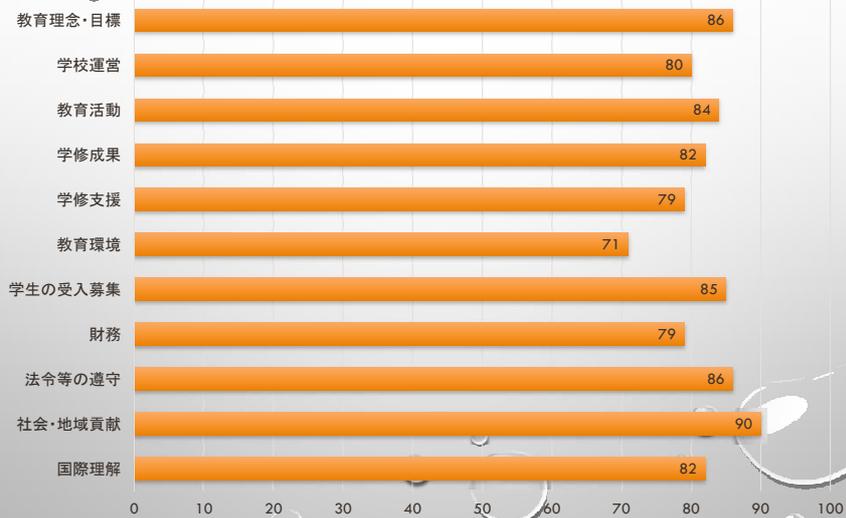
100 点満点・・・合計点数÷人数×25（A：4 点、B：3 点、C：2 点、D：1 点、）

学校自己評価項目	点数
1 教育理念・目的・人材育成像・・・平均 86 点	
ア 学校の理念・目的・育成人材像は定めている	90
イ 学校目標等は、専門分野の職業教育の特色を示している	93
ウ 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いている	86
エ 学校の理念・特色・将来構想などが生徒・学生・関係業界・保護者等に周知がなされている	73
オ 各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられている	90
2 学校運営・・・平均 80 点	
ア 具体的な学校運営・経営方針が策定されている	83
イ 方針に沿って各種の事業計画が策定されている	80
ウ 意志決定機能である校務運営委員会は、有効に機能している	95
エ 就業規則、給与規定は整備されている	83
オ 教務・総務の組織整備など決裁システムは整備されている	73
カ 業界や地域社会に対する法令・社会規範遵守体制が整備されている	80
キ HPなどで教育活動に関する情報公開が適切になされている	80
ク 業務の効率化が図られている	72
ケ リスクに適切に対応する体制が整備されている。	72
3 教育活動・・・平均 84 点	
ア 教育理念等に沿って体系的にカリキュラムが策定されている	83
イ 育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされている	85
ウ 授業はアクティブラーニングの手法を取り入れ、実施している。	85
エ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発、インターンシップなどが実施されている	90
オ 関連企業・業界、関係機関等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われている	83
カ 学生の学修に対する姿勢・態度の改善を指導している。	88
キ 授業評価の実施・評価体制がある	90
ク 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れている	83
ケ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっている	88

コ	資格取得の指導は、カリキュラムの中での体系的な位置づけている	85
サ	人材育成目標の達成に向け、専門性を有する教員を確保している	73
シ	企業・業界等との連携し、外部講師を招聘している	80
ス	先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われている	78
4 学修成果・・・平均 82 点		
ア	就職率の向上が図られている	88
イ	資格取得率の向上が図られている	85
ウ	退学率の低減に努めている	83
エ	社会人としての礼儀・マナー・生活態度の向上が図られている	76
オ	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握している	80
カ	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されている	80
5 学習支援・・・平均 79 点		
ア	進路・就職に関する支援体制が整備されている	80
イ	学生相談に関する体制が整備されている	80
ウ	学生に対する経済的な支援体制が整備されている	83
エ	学生の問題行動への指導體制が整備されている。	83
オ	保護者と適切に連携している	83
カ	卒業生への支援体制がある	75
キ	社会人の学修ニーズを踏まえた教育環境が整備されている	78
ク	業界との連携による卒業後の再教育プログラム等を行っている	68
6 教育環境・・・平均 71 点		
ア	施設・設備は、必要性に十分対応できるよう整備されている	70
イ	実習施設、インターンシップ、校外研修の場等について十分な教育体制を整備している	78
ウ	防災に対する体制が整備されている	65
7 学生の受入募集・・・平均 85 点		
ア	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っている	85
イ	学生募集活動は、適正に行われている	85
ウ	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられている	85
エ	学生納付金は妥当なものとなっている	85
8 財 務・・・平均 79 点		
ア	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている	80
イ	財務について会計監査が適正に行われている	80
ウ	財務情報公開の体制整備はできている	78
9 法令等の遵守・・・平均 86 点		
ア	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている	83
イ	個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	80
ウ	自己評価の実施と問題点の改善を行っている	88
エ	自己評価結果を公開している	93

10 社会貢献・地域貢献・・・平均 90 点	
ア 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている	93
イ 学生のボランティア活動を奨励、支援している	88
ウ 地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施している	88
11 国際交流・・・平均 82 点	
ア 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っている	80
イ 受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられている	83
ウ 留学生の学習・生活指導等について適切な体制が整備されている	83
全 61 項目の平均 82 点	

2018年度学校自己評価結果



改善に向けての提案

1 学校の理念・特色:73ポイント

【課題】

- ・学校の取組を在校生や保護者に伝えていない。

【提案】

- ・定期的な「学校通信」、パンフ等の発行(実施検討部署:企画広報)

2 決裁システムの整備:73ポイント

【課題】

- ・決裁が遅く、滞っている。また、急な案件に対応できない。
- ・急ぎの場合でも、持ち回り決裁をしない。

【提案】

- ・理事長決済の時間を設け、起案者が持ち回り決裁する。(実施検討部署:校長)

3 業務の効率化:72ポイント

【課題】

- ・会議時間が長い。

【提案】

- ・会議開始時間とともに、会議終了時間を明確にして会議を行う。

(実施検討部署:各会議事務局担当者)

4 業界と連携した卒業後の再教育:68ポイント

【課題】

- ・卒業後は就職企業任せで、再教育について意見交換できていない。

【提案】

- ・卒業生や採用に関して定期的に企業と情報交換する。

(実施検討部署:各学部・学科)

5 施設・設備の整備:70ポイント

【課題】

- ・施設の老朽化や道具・設備が不足している。

【提案】

- ・優先順位をつけた備品・設備の提案書を年度当初に作成し、理事長ヒアを行い、計画的に修理・購入する。(実施検討部署:事務長)

- ・左官の作業場を学外実習に移行させる。(実施検討部署:建設学部)

6 防災体制:65ポイント

【課題】

- ・避難経路、ハザードマップ、連絡体制、避難訓練がない。
- ・職員の防災意識が低く、防災教育ができていない。

【提案】

- ・担当を決め、防災関係の体制・マニュアル等を整備する。

(実施検討部署:校務運営委員会、プロジェクトチーム)

学生評価による指導方法の見直し

▶ 【調査概要】

- ▶ 1 評価実施日：2019年1月～2月
- ▶ 2 調査学部：建設学部及び自動車学部
- ▶ 3 調査学年：全学年
- ▶ 4 評価者人数：建設学部・延べ320名、自動車学部・延べ590名
- ▶ 5 被評価者数：建設学部・教員5名、自動車学部・教員12名

調査内容（学生評価シート）

授業内容

項目	評価の観点	4	3	2	1
1 探究心	学修意欲が高まる授業だった。				
2 目的性	学修目的・課題が明確な授業だった。				
3 理解度	授業は分かりやすかった。				
4 変化性	授業は変化があり、あきないものだった。				
5 満足度	学んでよかったと、満足感を持てた。				

- 1：そう思う (10ポイント)
- 2：ややそう思う (7.5ポイント)
- 3：ややそう思わない (5ポイント)
- 4：そう思わない (2.5ポイント)

指導姿勢

項目	評価の観点	4	3	2	1
1 熱意	先生は熱心に指導している。				
2 厳格さ	先生はルールを守らないと厳しく注意する。				
3 誠実さ	先生は自分の自慢や無責任な言動をしない。				
4 信頼度	先生は自分のことを心配してくれている。				
5 公平性	先生は学生をえこひいきしない。				

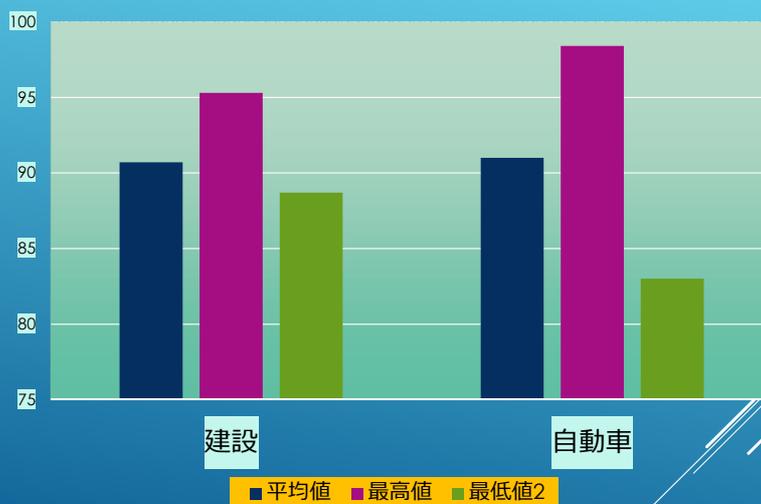
教員個々の振り返り

項目ごとの評価ポイントから、自分の指導を振り返る。

総合評価ポイントから、自分の指導を振り返る。
授業内容 (50ポイント) + 指導姿勢 (50ポイント)

自己の指導を学生目線で振り返り授業改善に取り組む。

平均評価ポイントと最高値・最低値



学校全体の振り返り・授業内容

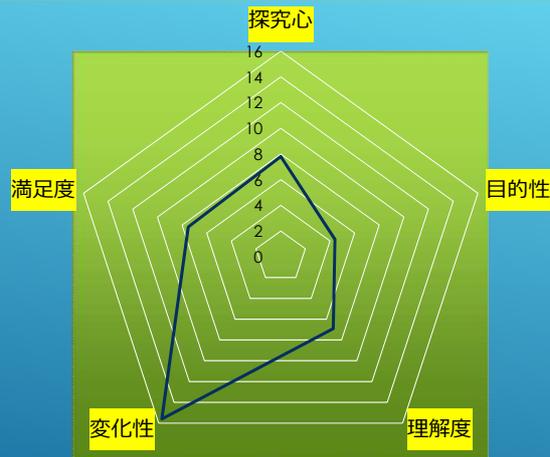
建設学部の授業内容の学生評価

「そう思う」と回答した学生の割合



変化性が他の項目より10ポイント程度低い。

「そう思わない」「ややそう思わない」と回答した学生の割合



授業内容が単調になっている傾向が見られる。

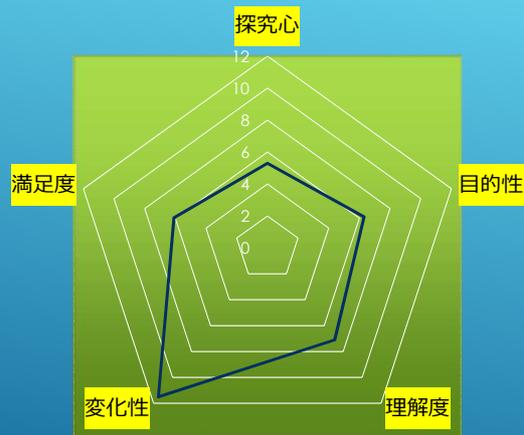
自動車学部の状況（平均評価ポイント：91.0）

授業内容「そう思う」と回答した学生の割合



変化性が他の項目より、6ポイント程度低い。

「そう思わない」「ややそう思わない」と回答した学生の割合

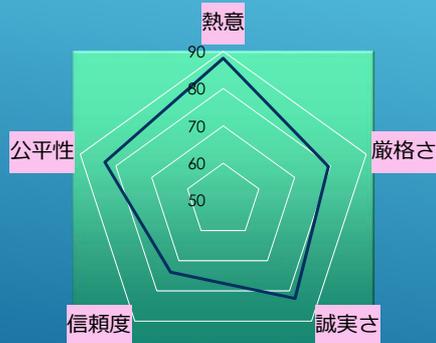


授業が単調になっている傾向が見られる。

学校全体の振り返り・指導姿勢

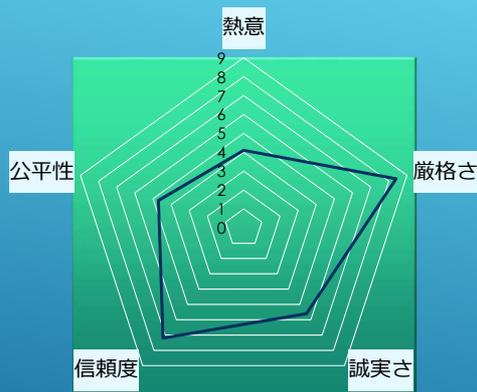
建設学部の指導姿勢の学生評価

「そう思う」と回答した学生の割合



学生のことを親身になって考える信頼度にやや課題が見られる。

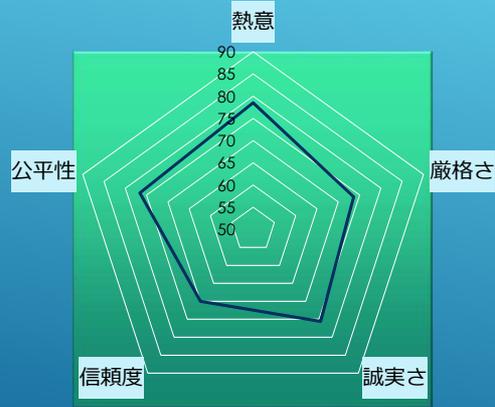
「そう思わない」「ややそう思わない」と回答した学生の割合



ルールに違反したときに、厳しく注意をしないなどの厳格さにやや課題が見られる

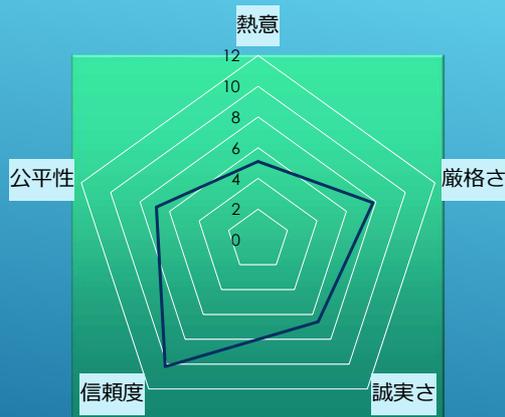
自動車学部の指導姿勢の学生評価

「そう思う」と回答した学生の割合



学生のことを親身になって考える信頼度にやや課題が見られる。

「そう思わない」「ややそう思わない」と回答した学生の割合



信頼度に課題が見られ、ルールに違反したときに、厳しく注意をしないなどの厳格さにもやや課題が見られる。

学校全体の振り返りのまとめ

授業内容		建設学部	自動車学部
1 探究心	学修意欲が高まる授業	C・B	C・A
2 目的性	目標・課題が明確な授業	A・A	C・B
3 理解度	分かりやすい授業	B・B	C・B
4 変化性	変化のある、あきない授業	D・D	D・D
5 満足感	学んだ満足感が持てる授業	B・B	C・B
指導姿勢			
1 熱意	熱意ある熱心な指導	A・A	B・A
2 厳格さ	違反者に対する厳しい指導	B・B	C・B
3 誠実さ	無責任な言動をしない指導	A・B	B・B
4 信頼度	学生を親身に考える指導	C・B	C・C
5 公平性	平等・公平な指導	A・A	B・B

A : 「そう思う」 81%以上、「そう思わない」 5%以下
 B : 「そう思う」 80~76%、「そう思わない」 6~8%
 C : 「そう思う」 75~70%、「そう思わない」 9~11%
 D : 「そう思う」 70%未満、「そう思わない」 12%以上

学校関係者評価委員会 会議要旨

1 日時：2019年6月12日（水） 16：00～17：30（日本工科大学校会議室）

2 出席委員

- ・三木 健義（兵庫県建設業協会 姫路支部長）
- ・山口 智（兵庫県自動車整備振興会 姫路事務所長）
- ・臼井 研二（兵庫県立姫路商業高等学校 校長）
- ・中農 光剣（保護者代表）
- ・北詰 央始（卒業生代表・建設）
- ・森本 崇裕（卒業生代表・自動車）

【事務局職員】

中農一也理事長、片山俊行校長、森本徹之建設学部長、稲岡正人自動車学部長、古河邦彦事務長

3 会議要旨

(1) 開会挨拶

中農理事長が、委員就任のお礼と学校の概要について説明を行った。

(2) 趣旨説明

片山校長が学校関係者評価の目的等について説明し、2018年度の学校自己評価に対して、各分野、立場から忌憚のない意見を言っていただくよう依頼した。

(3) 学校自己評価に対する意見

片山校長が2018年度学校自己評価結果と学生評価について報告し、次のような意見が交わされた。

ア 企業との連携した再教育について

- ・卒業生のニーズをつかむ必要がある。
- ・専門学校を卒業して何割かが退職している。退職の原因はどこにあるのか。
- ・せっかく資格を取得したのに、次にどのような企業に移ったのかを調査する必要がある。
- ・辞めた原因が整備工場やディーラーに原因があるのか、今の学生と職場環境とがギャップがあるのかなども検討する必要がある。
- ・学校では、3年間の後追い調査を行っているが、業界を離れた原因やその後、どのような職に就いたのかまでは、調査できていない。
- ・インターンシップで、学生と話してみると、就職までの目標は持っているが、もっと先まで見ている学生は少ない。将来の志を持っている学生は、就職しても辞めない。
- ・卒業生が活躍しているところを見せて、志を持たせるのもよいかもしれない。

- ・自動車の場合の学校とのギャップは、短時間で作業を行っていかなくてはならないことである。
- ・高校では、卒業生を囲む会というものを行っており、企業に就職して3・4年の卒業生が来て企業説明会を行っている。そういった取組も卒業生と学校を繋ぐ取組として面白いのではないか。
- ・再教育については、板金では、組合で研修を行っている。そのような業界の研修での学びと学校がうまく連携できれば良いのではないか。

- ◇卒業生が、就職後に学びたいことのニーズ調査を行うこと。
- ◇卒業生して3年間に調査し、当校卒業生の離職理由と離職率を把握すること。
- ◇離職者は、資格を生かした職場に再就職したのか、生かしていないのかを分析すること。
- ◇上記の分析を踏まえ、専門学校教育で指導が必要な部分がないか検討すること。
- ◇在学中に就職後のその先の目標、志を持たせるような進路指導を工夫して行うこと。

イ 学生評価結果について

- ・授業が単調になっている傾向があるとの分析であるが、資格取得のための指導内容が多いので、難しい面があるのだろう。
- ・学生が教員一人一人の授業や指導姿勢を評価する取組は大変良い。他の学校ではなかなかできない取組である。
- ・教員が熱心であると回答した率が高いのは素晴らしいことであり、その熱意と授業との工夫が結びつくように一層の取組を進める。
- ・自分たちの頃は、学科が立ち上がったところだったので、実習については学生側から提案し、授業に取り入れてもらったことが多くあり、充実感があつた。今は、きちんとしたカリキュラムが固まっているので、学修しなくてはならないことが多く、学生は忙しくなっているようである。
- ・実習で実際に使用する自動車を取り扱ったときは、達成感があつた。そのような学修が増えていくと、学生の授業への満足度も高まるのではないか。
- ・学修は、脳が活性化することが大切で、好きなことをしていると脳が活性化するそうである。アクティブラーニングも脳が活性化する方法であるので、授業評価表の活用は有効ではないかと思う。
- ・高い志を持ち、資格取得に取り組むのが専門学校の特徴だが、自動車一級は資格として生かされていない業界の実態がある。若い人が夢を持てる業界にしていかななくてはならない。

- ◇学生が教員を評価することは授業の質の向上を図る観点から大切であり、引き続き、評価を実施すること。
- ◇脳の活性化のために、アクティブラーニングを授業に工夫してとり入れること。